

カトリック仙台司教区・ **カリタスジャパン** 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町 1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax.022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

2011年3月11日から早いもので、2年たちました。あの震災の被害を受けた地域、ご家族、ご親戚を失った方々にとって、この2年間は、とうてい表現し尽くすことのできない悲しみと苦しみ、不安の毎日だったことでしょう。東北地方の復興支援活動に従事している多くの方が、それぞれの思いを胸に、3・11を過ごされました。今回は、大船渡・釜石・宮古・米川・石巻・原町・大槌の各ベースがどのような3・11を過ごしたのか、また、フランスのリヨンからも追悼ミサが行われたというお便りがありましたので、併せてご紹介いたします。

最後に、3月16日で発足丸2年を迎えた仙台教区サポートセンターから事務局長の成井大介神父をはじめスタッフ一同の挨拶と、2周年ポスター完成について掲載します。

3月11日、仙台教区サポートセンターのある元寺小路教会では、午後2時30分から仙台中央地区のモデラートル・渡辺彰宏神父主司式によるミサ、小松史朗神父による説教が行われ、約250人の参列者とともに祈りがささげられました。



昨年は元寺小路教会で平賀徹夫司教による追悼ミサがささげられましたが、今年からは、被災地の教会に赴いて平賀司教が追悼ミサをささげることに決まり、今回は岩手県の大船渡教会で行われました。

大船渡ベースの3・11



震災から2年経過した今日、市内の多くの場所で追悼式や追悼イベントが行われました。現在は更地になっている場所に花が添えてあり、改めてそこに住んでいた人がいたことを思い出す一日でした。追悼式には、多くの方が来られていました。そして街中では、いろいろな場所でキャンドルサービスが行われていました。

大船渡教会では、追悼ミサが13時30分から平賀司教様司式で、3人の神父様と共に行われました。ベースでも黙祷を捧げ、

お亡くなりになられた方のご冥福をお祈りしました。



～「大船渡のミサに参加して」～ 大阪からの神学生の感想

今回大船渡でのミサに参加して、共同体の在り方としての一つの形を感じました。

聖歌に対する信徒の能動的参加、多国籍でありながら双方が歩み寄り、初代教会を思わせる共同体の在り方、歌ミサによる典礼に対する考え方など、第2バチカン公会議によって示された教会の新しい形を感じました。特に司祭、信徒の主に対する一致を導く典礼の姿に心から感動しました。また、必ず大船渡に戻ってきたいと思います。



大船渡教会からの景色

釜石ベース 追悼行事

東日本大震災2年の節目の3月11日、釜石ベースでは、カトリック釜石教会で追悼行事として、午前9時から地元の写真館店主が撮影された写真のスライドショー、10時から1年の振り返り、11時からイエズス会の英神父様司式による追悼ミサを行いました。



教会信徒、住民の皆さん、ボランティアで分かち合いをし、スライドショーによって、大惨事によって傷ついた人々が悲嘆に嘆き悲しむだけでなく、そこから立ち上がっていく過程を垣間見ることができ、人の優しさ・たくましさを感じることが出来ました。

午後からは、釜石キャンドルナイト「かまいし復興の祈り」に参加し、釜石駅前に設置した復興の鐘をつき、犠牲となられた多くの方の鎮魂と復興への願いをこめました。そして、1,000個のキャンドルを灯しました。

住民の方々はもちろん、ボランティアさん、黙祷とともに東北のことを想ってくださる全国の皆様、それぞれにとって特別な1日だったと思います。月日が経過し、様々な「変化」を感じますが、カリタス釜石ベースは、ボランティアの皆様、様々な形でそれを支えてくださる全国の皆様と共に、これからも釜石で、ずっと我々を必要として下さる方がいる限り、変わらずに寄り添いそして支え続けます。

これからも皆様と共に一歩ずつ前を向いて歩いて行けますように。



※釜石ベースは、2013年4月1日より「特定非営利活動法人カリタス釜石」として活動を開始いたします。詳細につきまして、次号でお知らせします。

ボランティア急募

各ベースでは、2013年4月以降もボランティアを募集しています。地域によって活動内容に違いはありますが、瓦礫撤去や漁業支援、引っ越しのお手伝いやお茶っこなど様々な活動がございます。

どうぞ皆様のお力を貸してください。ご協力をよろしくお願い致します。

お申し込み方法など詳細は、各ベースのブログやカリタスジャパンブログ <http://caritasjapan.jugem.jp/>をご覧ください。

宮古ベース 宮古市慰霊祭

3月11日午後1時30分、宮古市東日本大震災二周年追悼式が、宮古市総合体育館で執り行われました。ご遺族700名余、一般参列者400名余、ご来賓50名余が共に参列しました。誰もが言葉を交わす訳でもなく、ただ正面祭壇を見つめる中、開会されました。

宮古市長、ご来賓の方々の追悼の言葉があり、追悼電報の奉読もありましたが、重苦しい雰囲気はぬぐえず、いかに震災による被災者の方々の心の傷が大きいものかと痛感しました。

そのような中でも、津軽石中学生による合唱は、やすらぎとこれから希望を持って進もうとしている方々に勇気を与えるものとなりました。

その後、国主催追悼式の中継が大型スクリーンに写され、天皇陛下、安倍首相のお言葉に続き、2時46分、全国民と共に黙とうを捧げました。岩手県代表の追悼の言葉は、宮古市出身の女子学生でしたので、会場は親近感に包まれました。

最後に、この震災で亡くなられた方々の名が刻まれた祭壇に献花をして、各々が追悼の祈りを捧げました。この震災の被害の甚大さを再確認する日となりました。



米川ベースの3. 11

今日は忘れる事のできない特別な日です。いつも私たちが活動している南三陸町災害ボランティアセンターは合同慰霊祭のため、クローズとなりました。私たち米川ベースは、全員で気仙沼・陸前高田・南三陸の被災地視察を終えたあと、南三陸町の誰もいない海岸で14:46、サイレンと共に黙祷を捧げました。



今日は天気が良く、海がとても綺麗でした。こんな綺麗な海が、2年前は津波となり東日本を襲ったとは信じられません。あるボランティアさんは、3月11日に改めて被災地で黙祷できたことによって、自分がなぜここで活動しているのか、そして初めて被災地に来たときの気持ちに戻ることが出来たと話されました。

夜には、近所の米川教会で「東日本大震災追悼と被災地復興のための祈り」を捧げました。米川教会の方々や隣の幼稚園の先生方、沢山のボランティアさんが参加してくださり、皆で被災地のためにお祈りをする事ができました。

行政の計画では、3年目に入り、これから復旧と復興が同時に進んでいく時期になります。今後も自分達ができる小さな事を、一つ一つ丁寧に続けていきたいと思えます。



石巻ベース ～石巻震災から2年の祈り～

あの未曾有の大地震・大津波…「東日本大震災」から2年となる今日、石巻ベースのオープン前の朝の時間に、スタッフ・ボランティア全員で、石巻市内で一番被害のひどかった門脇・南浜地区へ赴き、献花と祈りを捧げました。

「がんばろう石巻」の看板の献花台には、朝からすでにいつもより多くの花が捧げられていました。今も無残な姿を残している門脇小学校にも、ボランティアさんの手によって献花させていただきました。



そして迎えた午後2時46分…ベースの1階スペースでキャンドルを灯し、全員で黙祷しました。

この日、ベースを訪れる人は少なかったですが、外を走る車はいつもより多く感じ、報道関係者も多く見かけました。一方、近隣の人達の中には「いつものように過ごしたい」と淡々と過ごされている方もおりました。今日は、スタッフもボランティアも、静かな中に多くのことを感じ、考えさせられた日でした。

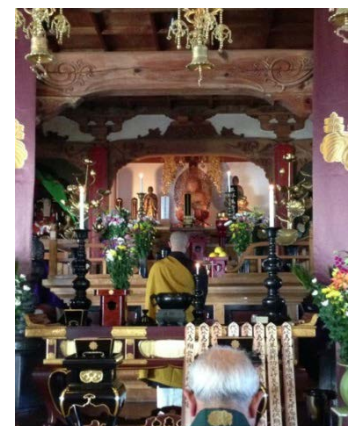
多くの方が一日でも早く「普通の生活」を取り戻せますように…。



原町ベース 3. 11の動き

2013年3月11日、カリタス原町ベースでは、いくつかのグループに分かれて、この2年間につながりのできた地元の方々とともに福島県南相馬市内外の式典等に参加しました。

あるグループは、福島県南相馬市小高区にある同慶寺(曹洞宗)での法要に招かれ、参加しました。小高区は、2012年4月16日に避難準備解除区域として出入りが許されるようになった場所で、震災から2年経った今回、ようやく法要ができる状態になりました。皆で夢や希望を語り合い、自然と調和を保ちながら、安心安全に暮らしていく方法を模索していきたいという住職のお話に感銘を受けました。



また、別のグループは、CTVCの活動地である宮城県亘理町・山元町を訪問し、地元の方々とともに祈る機会を得られました。

山元町復興のために努力しているテラセン(おてら災害ボランティアセンター)が本拠を置く曹洞宗普門寺では、震災犠牲者の三回忌のための荘厳な法要が営まれ、法要終了後の午後2時46分には全員で黙祷を捧げました。

その夜、坂元駅前、小平農村公園、山下駅前において、祈りのメッセージが書き込まれた竹灯籠の点灯が行われました。このイベントは昨年テラセンが中心となって開催されたもので、今年は住民の方々によって企画、準備されました。

原町ベースボランティア、原町教会・亘理教会の皆様、東京のCTVC講演会に参加された方々に書いていただいたメッセージが口ウソク(くわそく)の灯にゆらぎ、とても幻想的な光景が浮かび上がりました。日ごろの苦勞が吹き飛んだ瞬間でした。



大槌ベース 3. 1 1

2013年3月11日、震災から2年目のこの日、大槌ベースでは、朝のミサから始まりました。

ミサの説教で古木神父様が震災時からの時の流れに沿って、この被災地を振り返ってお話されました。被災した人々がどんなに苦しい目にあったか、また今現在もどんなに苦しんでいるかを話されて、その時ミサを受けたボランティア、またスタッフ一同、被災した人々に対する気持ちを一新する思いでした。

ミサの後、活動自体はありませんでしたが、それぞれが被災地を視察に回りました。

被災してから2年が経ちましたが、現地の様子はまだまだ復興というには程遠い感じです。ここをまた新しい区切りとして、心構え・考えをしっかりと持ち直して、さらに頑張っていきます。

フランス リヨンからの便り

フランスのリヨン市内では、3月11日から庁舎で被災地の写真展や福島復興展、リヨン大学で講演や被災地の映画など多くのイベントが開催されました。

震災から早2年、遠くからでも被災者の方々に何かせねばという気持ちと、リヨン市での被災地に関する行事とにあわせて、フルヴィエールのノートルダム大聖堂のジル神父様に東日本大震災追悼ミサをお願いしましたところ、快く承諾していただきましたので、そのご報告をさせていただきます。

朝から真っ青に晴れ渡った3月10日、東日本大震災追悼ミサが9時30分からフルヴィエール大聖堂で行われました。ちょうど前日、大聖堂の修復工事が終わり、工事の足場が外されたところでした。修復工事後、最初のミサが東日本大震災追悼ミサという素晴らしいチャンスに感動しました。

ミサには、フランス人と一緒にリヨン在住の日本人の方々も多く参列してくださり、今まで教会に来る日本人は少なかったのですが、震災以来、観光で立ち寄る日本人も増え、しかも静かに祈る日本人の若者たちの姿に、神父様も感動されている様子でした。日本人たちの何か力になりたいと、お説教でも力説されていました。

被災者の祈りも、共同祈願でフランス語、日本語と読み上げられ、リヨン在住の声楽歌手の成田さんご夫妻の「アベ マリア」の歌や、この教会の専属オルガニスト・イヴさんのオルガン演奏もあり、1時間半近い本当に素晴らしいミサとなりました。



ジル神父様と佐々木さん

とお伝えし、充実したリヨン滞在となりました。

皆様も機会がありましたら、ぜひリヨンのフルヴィエール大聖堂を訪れてください！

パリ日本人カトリックセンター
佐々木真紀



フルヴィエール大聖堂

仙台教区サポートセンター 発足2年

仙台教区サポートセンターは、2013年3月16日で発足丸2年となりました。2年前、現在サポセン事務局が設置されている元寺小路教会2階の事務所で、「ものすごく大勢のボランティアが被災地に来る。沿岸部の教会をベースにして利用してもらおう」と話し、そのための事務局として仙台教区サポートセンターを開設しました。

以来、本当に多くの方々、現在まで、釜石、米川、石巻、塩竈合計約7,170人のボランティアさんがサポセン経由で活動に参加して下さいました。教会というなじみのない場で大勢の人が集まり、ともに活動し、経験を分かち合い、食べ、寝るという、この大きな家族のようなグループは、2年の間に地域にしっかりと繋がり、ともに復興の歩みを進めています。

7,170人の方々が作り、大勢の募金者に支えられ、紡がれてきたこの活動。2年がたった今、改めて感謝の気持ちを表したいと思います。本当にありがとうございます。まだまだボランティア活動は続きますので、これからもどうぞよろしくお願いします。

仙台教区サポートセンター一同



全ベース会議の一コマ

2周年ポスター 完成

昨年3月に引き続き、震災2年目の活動を紹介するポスターを作成いたしました。今回は、仙台教区内で活動して下さっているカトリック系の各ボランティアベース、支援団体の皆様から写真を提供いただき、それをポスターとして印刷いたしました。全体のテーマは「希望」で、見てみると各現場から「今」の希望が伝わってきます。

ポスターを掲示してくださる方は、無料でお送りいたしますので、必要部数と送付先を以下の問合せ先までお知らせください。

【問合せ先】仙台教区サポートセンター

電話：022-797-6643 または 090-1217-3233

Eメール：sendaidsc@gmail.com

※ポスターは、全部で11枚あります。

